中学・高校音楽通信　2011年 秋号

音楽のおくりもの Information

Spire_M

中学・高校版
通巻第22号

新しい評価の考え方と評価規準の設定
新潟大学教育学部
伊野 義博

和楽器を使う授業のコーディネート
作曲家
眼龍 義治

カセットテープからオーディオCDをつくる

教育出版

新しい評価の考え方と評価規準の設定

新潟大学教育学部　伊野　義博

音楽科の評価の観点が「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」と新しくなりました。中学校では，平成 24 年度からこの新観点に則って評価規準を設定し，授業を実施することになります。

評価の観点はどのように変わったのでしょうか，また，授業では評価規準をどのように設定していけばよいのでしょうか。

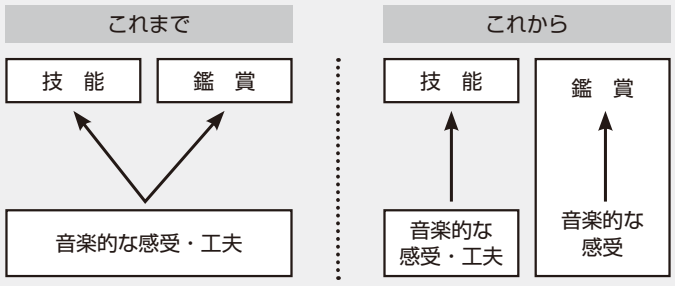
1. 新しい評価の観点

新しい評価の観点は次のようになりました。

これまでの評価の観点	新しい評価の観点
○音楽への関心・意欲・態度	○音楽への関心・意欲・態度
○音楽的な感受や表現の工夫	○音楽表現の創意工夫
○表現の技能	○音楽表現の技能
○鑑賞の能力	○鑑賞の能力

ここでの最も大きな特徴は，表中の矢印で示したところです。これまでの「音楽的な感受や表現の工夫」のうち「音楽的な感受」に相当する部分を，新しい観点では「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の双方に入れ込んでいます。これを図示してみましょう。

評価規準における「音楽的な感受」の位置づけ



このようになった背景には，感性を高め，思考・判断し，表現する一連のプロセスを働かせる力の育成を目指した音楽科学習指導要領の趣旨に即したものにすること，教育現場からの「音楽的な感受や表現の工夫」と「鑑賞の能力」の違いが分かりにくく，評価しにくいといった声があったことなどがあげられます。こうして音楽科の評価の観点及び趣旨が設定されました。下表の下線部が音楽的な感受に相当しています。思考・判断する力は主として「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の中に，そして表現する力は主として「音楽表現の技能」と「鑑賞の能力」の中に見て取ることができます。

観点	音楽への関心･意欲･態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ，音や音楽に対する関心をもち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽表現を工夫し，どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わって聴いている。

2. 授業における評価規準

以上のことから，これからの音楽授業においては，基本的には次のような形で評価の観点が設定され，音楽的な感受が位置づけられていくことになります。

＜表現の授業の場合＞

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫（音楽的な感受）	音楽表現の技能

＜鑑賞の授業の場合＞

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力（音楽的な感受）

＜表現と鑑賞を関連させた授業の場合＞

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫 （音楽的な感受）	音楽表現の技能	鑑賞の能力 （音楽的な感受）

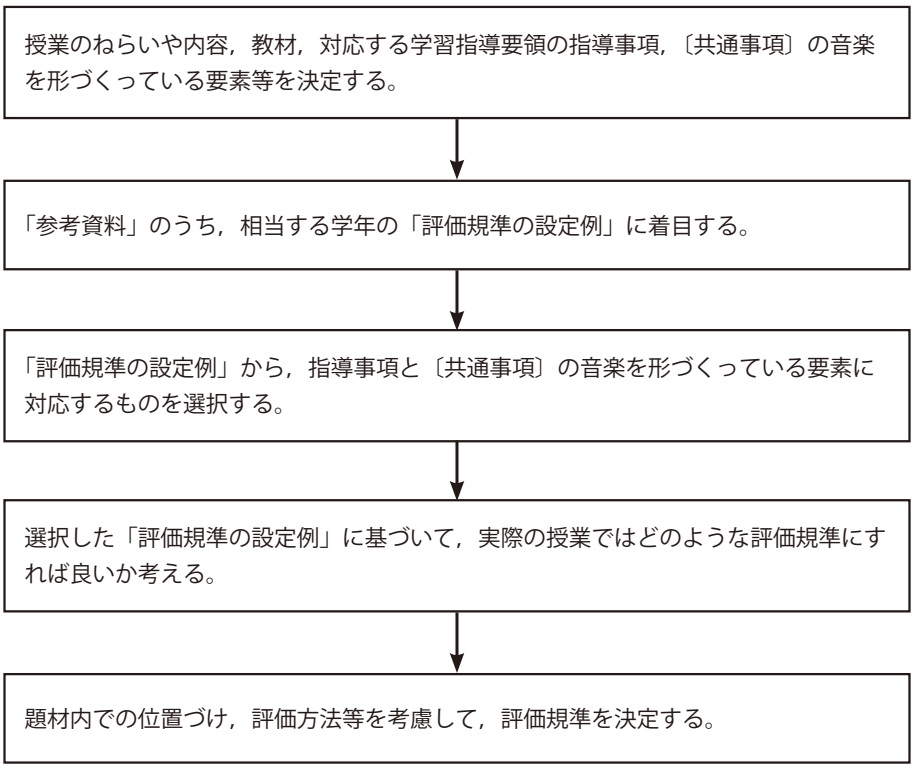
なお，表現と鑑賞を関連させた授業の場合，「音楽的な感受」の内容は，表現及び鑑賞の双方において同一となる場合も考えられます。

3. 評価規準の設定

それでは，ここからは，評価規準の設定について，歌唱と鑑賞の授業を想定して考えてみましょう。その際の資料として，国立教育政策研究所教育課程研究センターがとりまとめた「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽）」[*1]（以下「参考資料」）を用います。評価規準を設定する際は，いつもこの「参考資料」を用意しておいてください。なお，ここで示すのは，一つの基本例です。各学校では，生徒の実態等に合わせて，評価方法を工夫し，適切な評価規準を決定することが大切です。

1）基本的な手順

評価規準設定の基本的な手順は，次のようになります。



＊1　国立教育政策研究所 教育課程研究センター「評価規準作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 音楽）」平成 23 年 7 月。なお，この資料は，同センターのホームページにも掲載されています。
国立教育政策研究所 TOP ＞ 各部・センター案内 ＞ 教育課程研究センター ＞ 指導資料・事例集（中学校 音楽）http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

2)「評価規準の設定例」の表の構造

まず,「参考資料」にある「評価規準の設定例」の表がどのようにできているのか，確認します。次の表は，第 1 学年「A 表現･歌唱」の例です（説明が理解されやすいように，点線が加えられています)。

【「A 表現・歌唱」の評価規準の設定例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
・歌詞の内容(歌詞の言葉の意味，歌詞が表す情景や心情，歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）に関心をもち，音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素（音色,リズム,速度,旋律,テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方，読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。	「A 表現・歌唱」(1) ア
・曲種に応じた発声（我が国の伝統的な歌唱を含む我が国や諸外国の様々な音楽の特徴を表現することができるような発声など)，言葉の特性（言葉の抑揚，アクセント，リズム，子音･母音の扱い，言語のもつ音質，語感など）に関心をもち，それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能（同上）を身に付けて歌っている。	「A 表現・歌唱」(1) イ
・声部の役割（音楽の構造におけるそれぞれの声部が果たしている役目など）や全体の響きに関心をもち，音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	・音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し，どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。	・声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能（同上）を身に付けて歌っている。	「A 表現・歌唱」(1) ウ
上記の「音楽を形づくっている要素」については，指導のねらい，教材，学習活動等に即して，以下のように具体的に設定することも考えられる。 【音　色】声や楽器の音色，自然音や環境音，曲種に応じた発声及び楽器の奏法による様々な音色，それらの組合せや変化などが生み出す響きなど 【リズム】拍や拍子，リズム・パターンとその反復や変化，拍節的なリズムや拍節的でないリズム，我が国の伝統音楽に見られる様々なリズム，間など （以下，略）			〔共通事項〕

ここからもわかるように,「評価規準の設定例」は，指導事項別に分けられて書かれています。すなわち，この表の場合，上から「A 表現・歌唱」の事項ア，イ，ウ，そして〔共通事項〕の「音楽を形づくっている要素」の順に示されています。なお,「音楽を形づくっている要素」については,「指導のねらい，教材，学習活動等に即して，以下のように具体的に設定することも考えられる。」とあります。このことは，例えば,〔共通事項〕に「リズム」を選択した場合,「拍や拍子，リズム・パターンとその反復や変化，拍節的なリズムや拍節的でないリズム，我が国の伝統音楽に見られる様々なリズム，間など」から実際の授業に適したものを選択する方法もあるということを意味します。また，それぞれの文言をよく見ると，しばしば「～など」となっています。このことは,「など」の前に例示した以外にも適切なものがあれば，取り入れて考えることが可能であることを意味します。以上のことを念頭に，評価規準を設定してみましょう。

3）評価規準の設定（例）

⑴「A 表現・歌唱」の場合

次の内容で歌唱の授業を計画するとしましょう。

歌詞の内容や曲想を感じ取り，表現を工夫して歌う学習
― 歌唱共通教材「夏の思い出」（江間章子作詞，中田喜直作曲）の場合 ―
〇学習指導要領の内容（第１学年）
・「A 表現・歌唱」⑴ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り，表現を工夫して歌うこと。
〔共通事項〕⑴ア 旋律，強弱　　イ フェルマータ，テヌート，三連符，dim.

「参考資料」の第１学年，【「A 表現・歌唱」の「評価規準の設定例」】のうち，「A 表現・歌唱⑴ア」に対応する設定例に着目します。

《音楽への関心・意欲・態度》

「音楽への関心・意欲・態度」のところを見ると以下のようになっています。

・歌詞の内容（歌詞の言葉の意味，歌詞が表す情景や心情，歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）に関心をもち，音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

「夏の思い出」の特徴や教材性を考えると，例えば次のような評価規準の設定が考えられます。

・「夏の思い出」の歌詞~~の内容（歌詞の言葉の意味，歌詞~~が表す情景や心情，~~歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有~~曲の表情や味わい~~など）~~に関心をもち，音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

⬇

【実際の評価規準】

・「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいに関心をもち，音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。

《音楽表現の創意工夫》

「音楽表現の創意工夫」のところを見ると以下のようになっています。

・音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

また，〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素のうち，本授業で扱う「旋律，強弱」の部分は，次のようになっています。

【旋律】音のつながり方，旋律線のもつ方向性，フレーズ，旋律装飾，旋律が基づくところの音階，調など
【強弱】曲にふさわしい強弱，強弱の様々な変化，強弱の対比，音楽の全体や部分における強弱の変化など

これを基にして，指導内容や教材，実際の学習活動などを考慮して，《音楽表現の創意工夫》の評価規準を考えていきます。

・「夏の思い出」の~~音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，~~旋律の音のつながり方，~~テクスチュア，~~強弱，~~形式，構成など）~~を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞~~の内容~~が表す情景や心情，~~や曲想~~曲の表情や味わいを感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

【旋律】音のつながり方，~~旋律線のもつ方向性，フレーズ，旋律装飾，旋律が基づくところの音階，調など~~
【強弱】~~曲にふさわしい強弱，強弱の様々な変化，強弱の対比，音楽の全体や部分における強弱の変化など~~

⬇

【実際の評価規準】

・「夏の思い出」の旋律の音のつながり方，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいを感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

この評価規準は，授業の流れや評価の実際を考慮するなどして，「知覚・感受」の部分を取り出し，次のように二つに分けて示すこともできます。

・「夏の思い出」の旋律の音のつながり方，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受する。
・知覚・感受しながら，歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいを感じ取って音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

《音楽表現の技能》

「音楽表現の技能」のところを見ると以下のようになっています。

・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方，読譜の仕方など）を身に付けて歌っている。

これを基にして，実際の評価規準を考えていきます。

p. 8 へつづく

・「夏の思い出」の歌詞~~の内容（歌詞の言葉の意味，歌詞~~が表す情景や心情，~~歌詞の成立の背景など）や曲想（その音楽固有~~曲の表情や味わい~~など）~~を生かした音楽表現をするために必要な，~~技能（~~発声，~~言葉~~日本語の発音，呼吸法，~~身体の使い方，読譜の仕方~~など~~）~~の技能を身に付けて歌っている。

⬇

【実際の評価規準】

・「夏の思い出」の歌詞が表す情景や心情，曲の表情や味わいを生かした音楽表現をするために必要な，発声，日本語の発音，呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

⑵「B 鑑賞」の場合

今度は，鑑賞の授業で考えてみましょう。

音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わう学習
―「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」（ベートーヴェン作曲）の場合 ―
〇学習指導要領の内容（第２学年及び第３学年）
・「B鑑賞」⑴ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。
〔共通事項〕⑴ア リズム，旋律，テクスチュア，形式，構成　　イ 動機

「参考資料」の第２学年及び第３学年，【「B 鑑賞」の「評価規準の設定例」】のうち，「B 鑑賞⑴ア」に対応する設定例に着目します。

《音楽への関心・意欲・態度》

「音楽への関心・意欲・態度」のところを見ると以下のようになっています。

・音楽を形づくっている要素や構造（音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど，音や要素の表れ方や関係性，音楽の構成や展開の有り様など）と曲想（その音楽固有の表情や味わいなど）とのかかわりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

これを基にして「音楽への関心・意欲・態度」の評価規準を考えます。

・「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」の~~音楽を形づくっている要素~~リズム，旋律，テクスチュア，形式，構成や構造~~（音楽を形づくっている要素そのものや要素同士のかかわり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなど，音や要素の表れ方や関係性，音楽の構成や展開の有り様など）~~と曲想~~（その音楽固有の表情や味わいなど）~~とのかかわりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

⬇

【実際の評価規準】

「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」のリズム，旋律，テクスチュア，形式，構成や構造と曲想とのかかわりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。

《鑑賞の能力》

「鑑賞の能力」のところを見ると次のようになっています。

・音楽を形づくっている要素（音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成など）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

これを基にして，「鑑賞の能力」の評価規準を考えます。

・「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」の~~音楽を形づくっている要素（音色，~~リズム，~~速度，~~旋律，テクスチュア，~~強弱，~~形式，構成~~など）~~を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【実際の評価規準】

・「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」のリズム，旋律，テクスチュア，形式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

評価規準は，実際の授業の流れを想定し，「知覚・感受」の部分を取り出し，二つに分けて示すこともできます。

・「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」のリズム，旋律，テクスチュア，形式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。
・知覚・感受しながら，「交響曲第５番 ハ短調から 第１楽章」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

これらは，「動機」「第２主題」「批評文」などの用語を用いて，学習活動に即してより具体的な評価規準として設定していくことも考えられます。

以上，評価規準設定の基本的な手順と方法を説明してきました。肝心なのは，こうした手順と方法を形式的に真似るのではなく，その意味を考え，生徒の実態や授業のねらいに沿った，具体的で，評価可能な規準として設定することです。

和楽器を使う授業のコーディネート

連載①

●作曲家　眼龍 義治

私は邦楽の専門家ではありませんが，民族音楽に惹かれ，大学時代第二専攻で箏を３年間学び（宮城曲の小品），大学を出た後，箏・三絃の古曲を本格的に約６年間学びました（故上木康江師）。また，故小泉文夫氏の講座を１年間受講したことも大きな力となりました。平成 11 年から NPO 法人「邦楽教育振興会」（邦楽に関心のある先生方を中心に 600 余名からなる全国組織）の理事兼事務局長として，隔月発行の会報の編集等を担当し，全国の和楽器教育の実情をリアルタイムで知ることができました。平成 14 年度から，東京都品川区教育委員会の依頼により，区立の全中学校での和楽器（箏）体験授業を担当しています。同 18 年度からは全小学校も加わり現在に至っています。以上の体験から得た和楽器教育に関する知識・考え等を述べさせていただきます。平成 14 年度から完全実施に入った和楽器教育も 10 年経ちました。残念ながら楽器がない，教材がない，指導者がいない等で，十分な成果が上がっていません。今回は概論として各和楽器の特性等を中心にお話いたします。どの楽器から取り組むべきか等のご参考になればと願っています。なお，次回は実際の授業展開方法について述べたいと思っております。

箏を使う授業

調弦さえしてあれば，すぐに簡単な旋律が弾ける易しい楽器です。現在では種々な種類の箏が流通していますが，標準は約 180cm の長さです。短箏も十分に活用できます。但し，1m 以下のミニ箏がありますが，弦の間隔が狭く，小学生にはよいと思いますが，中学生以上には扱いにくくお勧めできません。また，弦の張り方は手で締めるものと，ネジ（ペグ）で締めるものがあります。弦が切れた場合ネジ式のものは簡単に張替えが可能ですが，手で締めるのは初心者には無理です。（1 本切れても業者に依頼しなくてはならい）

爪は生田流と山田流の２種類があり，どちらを選ぶかは指導者との関係を考慮するべきかもしれません。皮のサイズや数に余裕を持たせて揃えるべきでしょう。

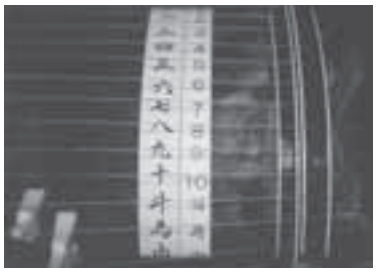
ケースに仕舞う時は必ず柱を外し，表裏・左右を間違えないよう十分に気をつけて下さい。床にそのまま置いて保管する場合は表裏・左右を揃えれば２～３面重ねてもかまいません。立てかけて保管する場合は必ず龍尾を上にし，龍頭を下にします。（逆さにすると倒れやすい）　また，油単（布製のカバー）使用で保管する場合は床に重ねて置かないようにします。

調弦にあたっては一の弦のみをチューナーで取り，他の弦はそれを基準に完全５度・４度・８度等の響きを確認しつつ調弦できるよう耳を鍛えて欲しいものです。（13 弦全てをチューナーで取るのはなるべく避けたいものです）一と五を同音とするか，１オクターブ低くするかは演奏曲目によって使い分けます。テトロン弦を張り，毎日使用する場合は１週間程度柱を立てたままでも構いません。

調弦法は平調子・中空調子・雲井調子・乃木調子等の古典的調弦法のほか，どのような調弦を用いても構いません。長・短音階の曲を演奏する場合は，その曲に最も合う（なるべく押し手を使わない）調弦法を工夫します。他の楽器との合奏の場合は特に調性を十分考慮する必要があります。

洋楽器と決定的に異なる点は，箏は絶対音高が決まる楽器ではないことです。このことを理解すると大変便利な楽器であることが分かります。

箏の体験学習時数が少ない場合は児童・生徒が少しでも早く対応できるように弦名のシートを貼っています。（両端をセロテープで固定する）小学校には外国人の児童がしばしば在籍しているので，昨年度から算用数字の弦名シートを採用しています。また，五，七，十の弦に赤のサインペンで印をつけています。（眉をひそめる邦楽のお師匠さん方もいらっしゃいますが，筆者はあくまでも児童・生徒主体に考えて実施しています）



※なお，写真の弦名シートをご希望の方は，教育出版のホームページ
http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/view.rbz?cd=2182 からダウンロードできます。

楽譜は生田流では漢数字の縦書譜を多く用い，山田流では横書譜が多く用いられます。最近は算用数字の楽譜もかなり普及しています。特に小学生には好まれます。

１面の箏を二人交替でも十分可能です。（三人以上では十分な授業はできません）

三味線を使う授業

自分で音を作る（ツボ）楽器で，箏より少し難しい楽器です。三味線は大きく分けて３種類あります。

①細棹（ホソザオ）　…長唄，端唄，俗曲，小唄等
②中棹（チュウザオ）…地唄，常磐津，清元，新内等
③太棹（フトザオ）　…義太夫節，津軽等

三味線と三絃という言い方がありますが，同じ楽器です。邦楽のジャンルによって習慣的に使い分けています。三絃は地唄箏曲の分野で使っており，その他はほとんど三味線と言っています。日本の伝統音楽は家元制度のもと，微妙な音楽表現の違いを非常に大切に守ってきました。そのため楽器に改良が加えられました。撥の大きさ，形も異なります。教育現場で用いられるのは殆んど細棹三味線と長唄撥であろうと思います。

弦は本来絹を使いますが，教育現場ではナイロン弦が一般的になっています。Ⅰ弦とⅡ弦を絹にし，Ⅲ弦のみをナイロンにする場合も多いようです。

サワリは三味線独特の音色を求めて工夫されたものです。いかにも日本人の美的感性に合った素晴しい工夫であろうと思います。Ⅰ弦のみを上駒に乗せずサワリ溝の部分で僅かに棹に触れる構造になっており，噪音が発生します。サワリにはネジ式のものがあり，津軽三味線や民謡三味線で使われています。Ⅱ弦やⅢ弦を弾いた時も，その時の音がⅠ弦の倍音と一致すると共振し，噪音を発します。従って三味線はどの弦を弾いても噪音を伴いながら演奏する楽器です。（ツボが正確でないとサワリは鳴らない）これがワビ・サビに通じる日本

的な音として愛好されるのでしょう。五音旋法で創られた曲は，七音音階で創られた曲より，この倍音に当たる音が多く含まれ，サワリがよく鳴ります。

胴皮は猫，犬，合成皮革等があります。教育現場では合成皮革が多いと思います。撥皮は演奏する時撥が当たる部分に貼ってある半月形（津軽三味線は長い）の皮で，胴皮を保護するものです。特に初心者はこの部分に正確に撥が当たるよう練習しなくてはなりません。

駒の位置は音色に大きな影響を及ぼします。一般的には胴の下部から３～ 4㎝のところにかけます。胴の中心に近くなると音が柔らかく（ぼやける）なり，胴の下部に近くなると音に張りが出ます。プロは曲によって微妙に位置を変えて演奏する場合もあります。

撥にもいろいろな種類があり，三味線の種類やジャンルによって使い分けています。材質は象牙，鼈甲（べっこう），水牛の角，木，プラスチック等です。教育現場では殆んどプラスチックが使われているようです。

調弦法は本調子Ｈ－Ｅ－Ｈ。二上り調子Ｈ－Ｆｉｓ－Ｈ。三下り調子Ｈ－Ｅ－Ａがあります。絶対音高ではないので，Ｉ弦をどの高さにとってもかまいません。おおよそＡからｄあたりまで可能です。このことは洋楽の弦楽器では考えられないことです。例えばヴァイオリンの弦を３度，４度上げ下げしたら大変なことになります。その点でも不思議な魅力ある楽器といえるのではないでしょうか。

楽譜は伝統的には箏と同様縦書きし，漢数字を用いてツボ（ポジション）を表します。近年は横書きで３本の平行線を引き，下がⅠ弦，中がⅡ弦，上がⅢ弦を表し，それぞれの線上にツボを算用数字で表現し，文化譜と呼ばれ広く用いられています。なお，開放弦は０で表現する方法と，一（１）で表現する方法とがあるので気をつけなくてはなりません。

１棹（挺）の三味線を二人交替でも十分授業展開が可能です。（三人以上は困難です）

篠笛を使う授業

和楽器は殆んど中国等から伝来しましたが，横笛は我が国で生まれた楽器と言えるようです。古事記に「竹の細い部分で笛を作った」との記述があります。万葉集にもしばしば「ふえ」が歌われています。篠笛は最も素朴な作りの楽器です。神楽囃子や祭り囃子等民俗芸能と共に発展してきました。また長唄や歌舞伎の御簾音楽にも欠くことのできない楽器として発展してきました。指孔は６孔，７孔がありますが，教育現場では７孔が適切です。本来はピッチを決める必要のない楽器でしたが，今日では半音ずつ高さの異なる１３種類のものが揃っていて，低いものから一本調子～十〇本調子と呼びます。四本調子～八本調子のものが扱いやすいでしょう。また，他の旋律楽器と合奏することを考えると八本調子がCdurに対応するので扱いやすいでしょう。

楽譜は縦書譜，横書譜があります。縦書は漢数字で，横書は算用数字で記譜します。八本調子管を用いるとCDEFGAHが１２３４５６７に対応し非常に分かり易くすぐに慣れることができます。

同じ音が連続する時は，隣の指を素早く打って区切ります。タンギングは通常使いません。

１管一人が原則でしょう。（リコーダーのように咥えないので，二人交替でも可能？）

和太鼓を使う授業

大太鼓（長胴太鼓），平太鼓，桶胴太鼓，締太鼓等があり，構造上では鋲打太鼓と締太鼓に大別できます。

出土した埴輪の中に太鼓を打っているものがありますから，古くから太鼓は使われていたと考えられます。しかし，今日の鋲打太鼓は大陸から伝来したものに改良が加えられたと考えられています。

皮は牛皮を用います。胴の素材は欅（けやき）・栓（せん）などが一般的です。最近は合板製のものも出回っています。

バチは材質，長さ，太さ等いろいろあり，太鼓の種類や用途によって使い分けます。大きい太鼓には堅くて太いバチ（樫材等）を用い，締太鼓のように小型のものには柔らかめで細めのバチ（桧材等）を用います。

締太鼓はひもで締めますが，今日ではボルト締めが多く出回っており，調整が簡単なので教育現場ではボルト締めの方が適切でしょう。

楽譜は殆んど横書きで，五線譜用の音符を活用して表記しています。また，太鼓の練習には唱歌（ショウガ）がよく使われます。

太鼓を用いる音楽教育では，多くの場合組太鼓（創作太鼓）として展開しています。それは，主として大太鼓が表打ちを担当し，締太鼓が地打ちを担当します。地打ちが一定のリズムを持続低音風に打ち続け，そのリズムに乗りながら表打ちが主旋律の役を演奏します。更に，平太鼓や桶胴太鼓など音色の異なるリズムを加えることによって，より一層音楽的に高い演奏を目指します。

１張（台）の太鼓を対面で打つ，順番に交替で打つ等，工夫次第でいろいろな展開が可能です。

尺八を使う授業

鎌倉時代に中国から伝来したものが改良され今日の尺八になったと言われています。竹を切って歌口に加工を施しただけの実に素朴な楽器です。演奏はそれなりに難しいのですが，音楽的表現の幅は非常に広い楽器です。この音質は日本人の美的感性に大変よく合致すると言えるでしょう。材質は真竹ですが，最近は木製，合成樹脂製のものも出ています。１尺８寸管が基準ですが，１尺３寸から３尺までの長さのものが工夫されています。１寸ごとに半音の差が生じます。８寸管（D 音）か６寸管（E 音）から始めるのがよいでしょう。奇数寸の管は派生音管ですから初心者は決して選ばないで下さい。孔は表に４孔，裏に１孔の５孔です。５孔でいろいろな音を出す訳ですから 1/2 開けたり，1/4 開けたりしなければならず，素早く対応できるようになるには相当の練習が求められます。多くの時間が必要な楽器です。

楽譜は琴古流と都山流で異なりますが，いずれも指孔に基づくポジション譜であり，実音を表現するものではありません。従って，同じ楽譜でも管の長さを替えると簡単に移調ができます。他の楽器は殆んど数字譜を用いるようになりましたが，尺八は今でも数字譜を用いません。

１管一人が原則でしょう。（リコーダーのように咥えないので，二人交替でも可能？）

カセットテープからオーディオCDをつくる

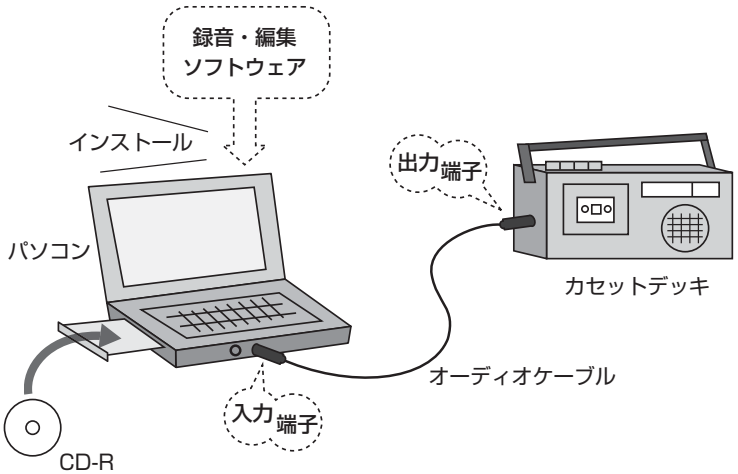
●音楽編集部

筆者の自宅には，カセットテープやLPレコードなど，アナログの音源がたくさんあります。カセットテープは，そのほとんどが20年を経過し，テープが切れたり，ワカメのように伸びてしまったりと，トラブルが頻発するようになってきました。音楽発表会の生録音など，もう入手できない大切な音が失われてしまう前に，別の媒体に移して聴き続けることはできないものか…。そこで，カセットテープに収録されている音を，自宅にあるパソコンを使ってCDに移すことにチャレンジしました。

本稿では，できるだけ簡単な手段を用いて，一般的なCDプレーヤーで再生することのできるオーディオCDの作成を目指しています。

（注）…カセットテープ等に収録された音源の複製および使用にあたっては，著作権の侵害とならないよう*制限が課せられます。*http://www.jasrac.or.jp/park/whats/whats_4.html

用意するもの
- ●カセットデッキ
- ●オーディオケーブル
- ●パソコン（CD-Rに書き込みができるドライブが付いているもの）
- ●録音・編集ソフトウェア
- ● CD-R



1 カセットデッキとパソコンをつなぐ

※カセットデッキにケーブルをつなぐ

カセットデッキの裏側にある，音楽信号の出力端子（写真 1）に，電器屋さんで購入したオーディオケーブルの RCA プラグ（写真２）を接続します。このとき，端子の色（赤と白）を間違えないように注意します。

ラジカセなど，ヘッドフォン端子しかない場合は，（写真３）のような両端がステレオミニプラグになっているオーディオケーブルを使い，一方のプラグをヘッドフォン端子に接続します（写真 4)。

写真 1

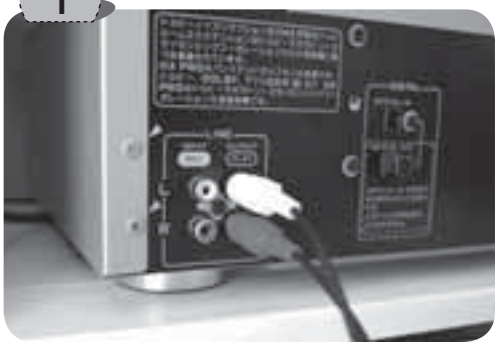
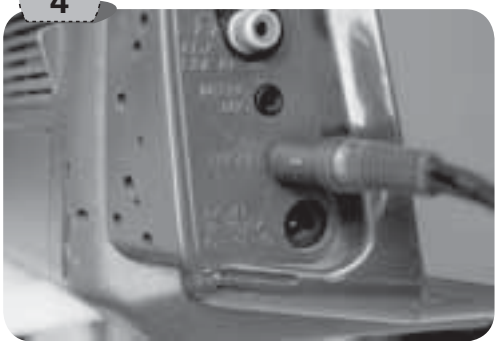


写真 2

写真 3

写真 4



※ケーブルの反対側をパソコンにつなぐ

オーディオケーブルの反対側のステレオミニプラグを，パソコンの入力端子「LINE IN」へ，無い場合は「MIC」に接続します（写真５)。

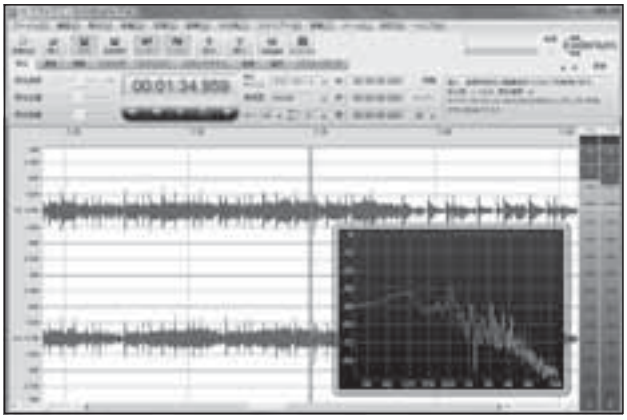
写真 5

2 録音・編集ソフトをパソコンにインストールする

筆者は録音・編集ソフトに「SoundEngine Free」*（以下 SoundEngine）を用いました。SoundEngine は wav ファイルの録音や編集ができる，使いやすく多機能なソフトウェアで，インターネットを使って株式会社コードリウムのホームページ，http://soundengine.jp/software/ から無償でダウンロードできます。フリーのソフトウェアで，サポートなどは一切ありません。本稿をお読みの方がこのソフトを使われる場合は自己責任となりますのでご注意ください。

なお，録音･編集ソフトは，有料のものや，無料のものなどが，数多く公開されています。パソコンを使った録音に挑戦される際は，ソフトウェア検索サイトなどを利用し，お持ちのパソコン環境に適合したソフトウェアを探されるのも一考かと思います。

http://soundengine.jp/software/



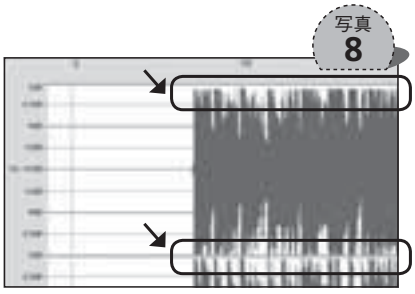
SoundEngine の実行画面▶

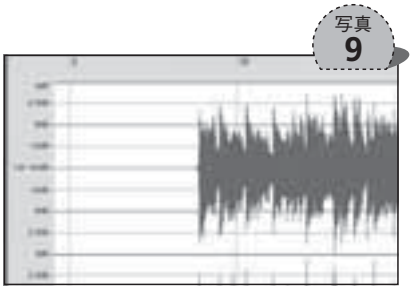
3 パソコンにカセットテープの音を録音する

※録音レベルの調整

SoundEngine を起動し，カセットテープを再生します。録音タブをクリックすると画面右側のレベルメータが動き出しました。パソコンを使った録音が可能な状態です。試しに１曲めを２分ほど録音してみました。

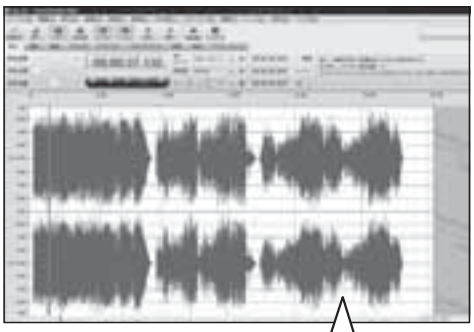
再生タブをクリックし，音を再生すると，画面では音が波形で表示されます。**写真８**の矢印の部分は，波形がレベルゲージを越え，音が歪んでしまいました。どうやら録音レベルが高すぎたようです。最大音量の波形が，レベルゲージの最大の 0dB に収まるように録音音量を調整します（**写真９**）。この調整は，最適な録音音量が決まるまでには［録音→再生・波形のチェック→録音音量の調整］を何度も繰り返したため，少々時間がかかりました。





＊パソコンに録音する

さて，録音レベルが決まったら，いよいよ録音の本番です。カセットテープのA面全体を録音し，名前を付けて保存（rec_01.wav）しました。続いてB面全体も録音し，名前を付けて保存（rec_02.wav）しました。



rec_01.wav

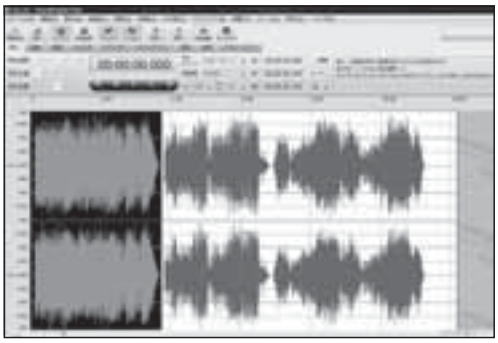
A面全体

rec_02.wav

B面全体

4 録音したwavファイルを曲ごとに分割，保存する

分割，保存については何通りか方法があると思いますが，ここではA面全体のファイル「rec_01.wav」から，1曲めの波形を選択，コピーし，新規ファイル「01 トラック1.wav」として保存しました。同じ手順でA面とB面の全曲のwavファイルをつくりました。



選択・コピー

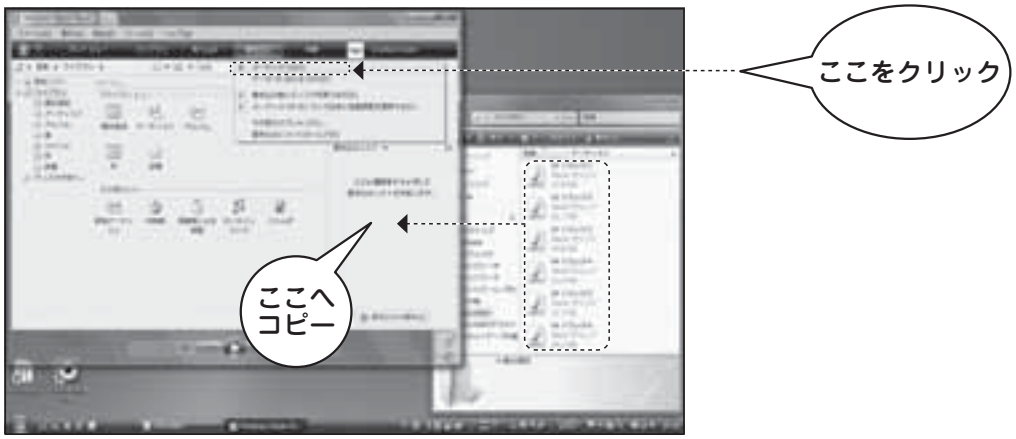
貼り付け

新規ファイル
01トラック1.wav

A面とB面
全曲のwavファイル

5 wav ファイルを CD に書き込む

さて，最後の工程になりました。「Windows Media Player」を使って，オーディオ CD をつくります。「Windows Media Player」を起動し，「書き込み」ボタンの下の小さい矢印をクリックすると出てくるメニューから「オーディオ CD」をクリックします。次に「書き込み」ボタンをクリックすると，右下に「書き込みリスト」が表示され，ここへ，先ほどつくった wav ファイルをすべてコピーします。CD ドライブに空の CD-R を入れ，画面右下の「書き込みの開始」ボタンをクリックすれば書き込みが開始され，終わればオーディオ CD の完成です。



完成！

カセットテープの
インデックスカード
を撮影し，CD に
印刷してみました。

編集協力：須藤　健次（株式会社コードリウム）

*「SoundEngine Free」は，プログラマーの須藤健次さんが個人的につくった録音･編集ソフトウェアで，開発は現在も須藤さんの手によって継続されています。

音楽鑑賞用 DVD

オーケストラ入門

Guide to the Orchestra

- 世界が注目する若きマエストロ, アラン・ギルバートのリハーサルを収録
- オーケストラの歴史や楽器の紹介等, 音楽鑑賞教育授業に役立つアイテムを収録
- ライブラリアンやステージマネージャーの仕事も紹介
- 協奏曲や大編成オーケストラ等, オーケストラの魅力が満載

収録内容

◆オーケストラの歴史（約 4 分）
ハイドンとモーツァルト／2 管編成のオーケストラ／小編成から大編成のオーケストラへ
紹介曲…交響曲第 35 番ニ長調 K.385「ハフナー」から（モーツァルト作曲）

◆オーケストラで使用される主な楽器（約 21 分）
木管楽器／金管楽器／打楽器／ハープ／弦楽器
紹介曲…交響組曲「シェエラザード」作品 35 第 2 楽章（リムスキー・コルサコフ作曲）シャルル・デュトア指揮／ＮＨＫ交響楽団

◆ステージに上がるまで（約 23 分）
リハーサルから本番まで
紹介曲…交響曲第 3 番変ホ長調作品 55「英雄」第 1 楽章（ベートーヴェン作曲）アラン・ギルバート指揮／ NHK 交響楽団

◆協奏曲―ソリストと共演するオーケストラ（約 12 分）
紹介曲…ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調作品 18 第 3 楽章（ラフマニノフ作曲）イム・ドンヒョク（ピアノ）／シャルル・デュトア指揮／ NHK 交響楽団

◆大編成の管弦楽曲（約 13 分）
紹介曲…交響詩「英雄の生涯」作品 40 から抜粋（リヒャルト・シュトラウス作曲）シャルル・デュトア指揮／ NHK 交響楽団

定価：17,850 円（本体 17,000 円＋税）
全 1 巻／約 72 分／解説書（A5 変型判 12p）付
監修：池辺晋一郎（作曲家／東京音楽大学教授）
協力：NHK 交響楽団　　**資料協力：武蔵野音楽大学楽器博物館，音楽之友社**
発行：NHK エンタープライズ　　**発 売 元 ：教育出版株式会社　TEL 03-3238-6908**

教育現場とリンク
教育出版
エデュコネット
EducoNet の会員を募集しています！
入会金・会費は無料です！
フレッシュな教育情報 地球となかよし

会員の皆様に，インターネットを通じて教育情報をご提供します。
EducoNet（エデュコネット）とは…
教育関係者専用のWEBサイトです。
役立つ資料・情報の宝庫です。

●教育情報……教育界の動向等の情報提供
●教科のページ……年間指導計画・評価基準・高校シラバス・教科別お役立ちコーナー・編集部からのお知らせなど
●メールマガジン…教育関連情報をタイムリーに発信

教育出版ホームページの主な内容
http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/

EducoNet（会員制）
・年間指導計画　・評価基準
・教科別お役立ちコーナー
・教科通信　・ニューズレター
・各種教育情報　・編集部から
・メールマガジン

■情報提供
…●教育情報　●総合的な学習　●研究会日程
■各種リンク集
■ご案内
…●教科書内容　●教師用指導書　●教材品
■教科書関連資料・写真館
■新刊書紹介
■もの知りテーマパーク
■地球時代の教育情報誌Educo

会員は…
◆会員専用のコンテンツにアクセスできます。
◆メールマガジンが定期的に配信されます。
申し込みを受け付け後，ID・パスワードを勤務先に郵送します。

教育出版 EducoNet 会員登録について
★ WEBにて受け付けています！！
教育出版ホームページまたは
http://educonet.jp/entry.html にアクセスしてください。
※個人会員のほかに，教育委員会・学校単位での申し込みも受け付けます。

教育出版　▶▶▶ EducoNet 事務局　E-mail : educonet@kyoiku-shuppan.co.jp

中学・高校音楽通信　Spire_M〔2011年 秋号〕　2011年9月30日　発行

編　集：教育出版株式会社編集局　　発　行：教育出版株式会社　代表者：小林一光
印　刷：大日本印刷株式会社　　発行所：教育出版株式会社
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-10　　電話　03-3238-6864（お問い合わせ）
URL　http://www.kyoiku-shuppan.co.jp

地球となかよし 教育出版 なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は，科学技術の進展や国際化，情報化，高齢化などによって，今，大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で，人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには，人や自然を大切にしながら，共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは，この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め，社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011-231-3445　FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138-51-0886　FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391　FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821　FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221　FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082-249-6033　FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193　FAX：089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F TEL：092-781-2861　FAX：092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411　FAX：098-859-1411